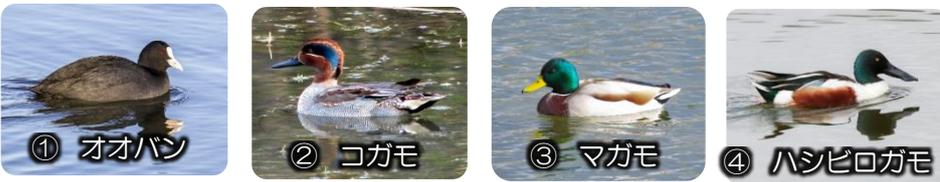


冬陽を浴びて落ち葉の道に心和む穏やか散歩

○冬は、バードウォッチングに絶好の機会、双眼鏡を手に御所沼へ

冬の訪れとともに、御所沼の水辺には、さまざまな渡り鳥たちが姿を見せ始めます。寒さを逃れて飛来する冬鳥には、「オオバン」「コガモ」「マガモ」「ハシビロガモ」などがいます。オオバンは黒い体に白い額が特徴で、水草をついばむ姿がよく見られます。コガモはカモ類の中でも最も小柄で、オスは頭部の緑色と体側の茶色が美しい鳥です。マガモは代表的なカモの仲間、オスの光沢のある緑色の頭部が目を引きまます。ハシビロガモは大きく平たいくちばしが特徴で、水面をくるくる回りながら採食する姿が見られます。これら冬鳥が、にぎわいを見せる一方で、カルガモは「留鳥」として一年中、公方公園に生息しています。冬は、鳥たちが池の中で羽を休めたり、食事をする様子を間近で観察できる絶好の季節です。冬鳥と留鳥の違いや特徴を知ること、さらに楽しみも広がります。双眼鏡を手に、渡り鳥たちの美しい姿を探しながら、冬ならではの公園散歩を楽しんでみてはいかがでしょうか。



○公園名所案内 「地名碑」公園に落とし込まれた郷土 その2

てくてく情報 11月号で紹介された「地名碑」の紹介記事の続きになります。公園のあちこちの場所を命名することによって、郷土の古い記憶を甦らせ、詩的関興のイメージーションを膨らませる、それが地名碑の役割となります。いくつかご紹介します。⑤いもころがし坂：この場所に芋畑があったことに由来。⑥かわうそ橋、瀬島：現在、けやき平の地名になっているが、昔その場所に瀬沼（かわうそ沼）があったことに由来。⑦トラエモン道：地名、牧野地の小字にトラエモンの名があり、そこから名付けた。⑧星湖釣殿：御所沼がかつて、星形だったことに由来。他にも、公園公式HPには、たくさん地名碑の解説があります、ぜひご覧ください。



1月の鳥【エナガ】

スズメ目エナガ科の野鳥、日本最小のクイタダキに次いで小さな鳥で長い尾羽が名前の由来です。ふっくらとした姿は、冬になるとさらにふっくらと見え、可愛らしい姿で人気があります。小さな「チリリリ」という鳴き声特徴的で、群れで生活することが多く、他の鳥たちと混ざることもあります。興味深いことに、エナガには「ヘルパー」と呼ばれる行動が見られます。これは、巣立った後も親鳥を手伝い、他のヒナに餌を運ぶという珍しい習性です。エナガは、見た目だけでなくその社会性も魅力的な鳥と言えるでしょう。



○1月の花と実のご紹介 ⑨ロウバイ ⑩ピラカンサ ⑪ナンテン

⑨ロウバイは、梅に似た、黄色で光沢のある蠟細工のような花をつけます。⑩ピラカンサは、バラ科バラ目で冬に赤い実をびっしりとつける常緑低木です。乾燥に強く棘があります。⑪ナンテンは、メギ科マツブサ目の庭木です。赤い実が縁起物としてお正月飾りなどで親しまれる常緑低木です。



★古河公方公園公式アカウントを開設しました！是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

